



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21 年度 RI テーマ
Rotary Opens Opportunities

国際ロータリー会長
ホルガー・クナーウ

Weekly Bulletin

30th anniversary

藤枝南ロータリークラブ 会報

例 会：毎週金曜日
会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
T E L：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内 藤枝市藤枝 4-7-16
T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2020-21 年度
会長：松浦正秋 副会長：竹田敏和 幹事：鈴木健夫 副幹事：望月 誠

例 会 第 1 4 0 2 回：通常例会/小杉苑

ソング 四つのテスト、おぼろ月夜：ソングリーダー 数野晴紀君

原点回帰

■ 会長挨拶

松浦正秋君



洪澤栄一を主人公にした大河ドラマが先々週から始まりました。ネット上に関連記事が多く掲載されています。その一部をご紹介します。

「士魂商才」との言葉をよく用いたそうです。「和魂洋才」日本人として大和魂を維持しながら外国の優れた思想、技術を取り入れて活用する重要性を説いたものを真似たそうです。

一人前になるには、武士的精神が必要ですが、武士的精神のみに偏って、商才がなければ、経済的に自滅を招くこととなります。「士魂にして商才がなければならぬ」と言っています。「真正の利殖は仁義道徳に基づかなければ、決して永続するものでない」との信念があり、それゆえに、「論語の教訓に従って商売し、利殖を図ることができる」と考えました。論語と算盤です。

如何に自ら苦心して築いた富であっても、富を自分一人の専有だと思ふのは大いなる見当違いであり、人はただ一人では何事もなし得るものではありません。国家社会の助けによって自らも利し、安全に生存もできるのです。国家なくして商人の成功はあり得ません。したがって、成功した商人ほど国家、国民に還元することを考えるべきであ

るということになります。富の度が増せば増すほど、社会の助けを受けている訳だから、この恩恵に報いるために、救済事業をすることは、当然の義務であり、できる限り社会のために助力しなければならないと言っております。

ロータリーの目指す精神に近いと感じました。偉人達の生き様に触れ、ロータリアンとして少しでも成長できればと考えております。

■ 出席報告

加藤智之君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
38 / 51 74.5%	45 / 51 88.23%

(1) 欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 伊藤彰君 ○植田君 ○大村君 ○杉浦君 ○中村君
- 鈴木照君 ○瀧脇君 ○村松章隆君 ○村松章典君
- 望月君 阿井君 川口君 佐野裕君

(2) メイクアップ者

- 大村和宏君 中山恵喜君 瀧脇一啓君
- 村松章隆君

食事準備数	食事提供数	残	累計残
41	39	2	26

パーフェクト例会数 🍻🍻🍻🍻🍻🍻🍻🍻
😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

■ スマイルBOX

加藤智之君

- ・結婚記念日ありがとうございます。これからも大事にしていきます。 内山淑夫君

スマイル累計額 514,000円

■ 会員卓話



江崎直利君

今回 RC についてお話するよ
うにとの事でした
まず RC に入れて
いただいて一
番良かったのは、
たぶん入会しな

ければお話する機会もなかった先輩や後輩とお会いできた事です。ただこれ以上 RC のお話は一分ももたないので、職業、仕事について話題を変えさせていただきます。

さて今、「おちょやん」という朝ドラを楽しみにしているのですが、父が生きていたら芝居や映画が舞台という事で身近に感じて毎朝視聴していたのではないかと、思いながら見えています。

私のおじいさんは、生きたまま自分の葬式をした人で、戒名も劇に狂うと書いて劇狂院とシャレで付け蛙を棺桶に仕込んで、棺桶のフタを開けて「生きカエル」とパフォーマンスをしました。香典はいらないから、そのかわり新聞をとって、芝居を見に来いと、自分の死を宣伝に利用したシャレ者でした。それを父からは自分の子供のころの思い出として語っていました。

ここに「失われていく仕事の凶鑑」という本があります。映画業界でも今では聞かない仕事がありました。活動弁士、映画看板士、成人映画、映写技師、飲食では、キャバレーのホステス、名曲喫茶、食堂車、ビュッフェ、流し。アイスキャンデー売り、蕎麦屋の出前持ち、サンドイッチマン、ミルクスタンドなど、もう街中で見なくなった自動販売機をあげると、ペットボトルではない紙コップで飲むオレンジジュース、家族計画品やカップヌードル、乾電池、エロ本など、驚いたのは、第二次世界大戦後で廃止になる前、明治時代にはピストル屋が普通にあったそうです。

また衣服で着物が日常だったころたくさん仕事がありました。

扇子屋、足袋屋、糸屋、袋物屋、縫物屋、半襟屋、(少しだけ見える襟にオシャレを楽しんだ)

悉皆屋しっかい(きものプロデューサー)

呉服屋とどうちがうか? 呉服屋は小売り業で悉皆屋はサービス業でコーディネーター、丸洗い、洗い張り、染み抜きなど請け負う、

日本ロータリーができたころから100年前はどんな職業の会員がいたかと思いをはせています



玉木末雄君

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
3/5(金) 第1403回	会員卓話	理事会
3/12(金) 第1404回	会員卓話	小杉苑
3/19(金) 第1405回	早朝例会	
3/26(金) 第1406回	会員卓話	小杉苑

■ 今週の一言

杉山茂範君



私が社会人となり就職した会社は大阪本社のボイラーメーカーでした。入社式の後、滋賀県の工場で1ヶ月半ほど研修があり寮

生活をしました。当時は週休二日制が導入されたところで、土日休みとなっていました。生活したことのない場所で時間を持て余していました。

そこで気づいたのが最寄りの駅から京都駅まで在来線の新快速でおよそ30分ということで、思い切って中学の修学旅行で行けなかった銀閣寺へ行ってみることにしました。まだ新入社員だったので給料をいただけていませんでしたので、現地ではひたすら歩きでしたが、日常生活の中で神社仏閣史跡めぐりができてしまうということは、私にとっては衝撃でした。以来、週末が待ち遠しく楽しみになりました。

京都でのプチ旅行を楽しんだ私の22歳の春でした。

